

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278100249		
法人名	医療法人社団 藤花会		
事業所名	花平の郷	ユニット名: さくら	
所在地	浜松市北区引佐町花平725-1		
自己評価作成日	平成23年10月18日	評価結果市町村受理日	平成24年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai gokouhyou.jp/kai gos ip/ infomationPublic.do?JGD=2278100249&SCD=320&PCD=22>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成23年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく楽しくのんびりと生きがいのある生活」を送って頂けるよう、努めている。個々の生活リズムを大切に、それまでの生活リズムに近づけるよう入浴は夕方からとしている。お一人お一人の「喜ばれるものは何か」を追求し、誕生日会ではご自宅へお連れしたり、お好きなものを食べて頂くよう外出すといった内容の企画を立てている。毎月の食事会では手作りでの季節が感じられる料理を作ったり、出前や外食も定期的に行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周りを緑に囲まれた静かな自然環境の中で、ゆったりと落ち着いた雰囲気作りをして、入居者がのんびりと過ごせるように日常生活を支援している。管理者、職員が理念を共有し気持ち一つにして「入居者が自然体で自由に生活ができるように」と、現状に満足をしなくて、常に目標を持って取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の皆様から愛される施設」を理念として開設から掲げ、全職員へ基本理念を配布し、各所に掲示している。常に意識し自己の振り返りが出来る様にしている。	事業所独自の理念を掲げ、毎月の会議で全職員で唱和をして意識付けし共有している。理念にそって職員が独自に目標を立て、目標に対して年1回自己評価をし、実践に役立っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域が主催するお祭りや盆踊りなどへ参加させて頂き、こちらが主催する催しへは地域の皆様を招待するなど交流を図っている。普段の散歩では途中の立話など日常的に交流は図れている。	入居者は車の通りが少ない道に散歩に出かけて畑仕事の人達と挨拶を交わし、花作りしている人が事業所に花を届けてくれることもある。老人クラブとは、草取りや、年末に門松を準備してくれる関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催のセミナーを適時行ない、地域の方々へ「認知症について」など分かり易く説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催を開始以来継続しており、情報交換及びサービスの提供に努めている。	2ヶ月に1回、自治会長・区役所職員・民生委員・地域包括支援センター職員が参加し報告や話し合いが行われ、議事録が家族にも配布されているが、入居者や家族の参加が得られていない。	認知症の人の理解や支援の輪を広げていくためにも、入居者や家族も参加して情報交換や話し合いが出来るように取り組んでいくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会への出席や運営推進会議を開催することで、行政職員や地域包括支援センターの方々との協力関係が保たれている。	介護相談員の訪問や運営推進会議・事業所連絡会を通し、区の担当者や包括支援センター職員と連携を図り協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会にて「高齢者の尊厳を守る会」を設置し全職員に対し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	委員会には職員が交替で委員として出席し、全職員に報告をして周知を図り、身体拘束をしないケアに活かしている。緊急時や転倒の危険がある場合は家族と相談し、同意を得て対応し、経過を記録して検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者の尊厳を守る会」にて虐待についても全職員に指導している。スピーチロックなど無意識にされていないか、職員同士で注意し合っている。		

静岡県(花平の郷 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当者を決め、必要な研修に参加している。希望されれば、担当弁護士との接見に同席する等の支援も行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の段階で契約についての説明はしっかりと行なっている。改定などがあれば、その都度書面にてお知らせし、面会時にて詳しく説明を行ない同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも声を掛けて頂ける雰囲気作りに努めているが、言い難い方に対し、意見箱を設置している。出された意見については、その回答を記し、掲示板に張り出す様に決めている。	年1回の家族会ではアンケートを実施し、面会を訪れた家族が気づいたことを気軽に言えるように、管理者や職員は言葉をかけて話しやすい雰囲気づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を行ない、意見や提案を確認している。施設長が法人の運営会議に参加しており、必要な内容は直接運営会議に持ち込んでいる。	職員の意見や提案を反映する流れが出来ていて、台風で長時間停電をした経験から職員が必要性を訴え、管理者から運営会議に提出し発電機の購入につなげている。日々の行事の提案や、夕方の申し送りの方法を検討し試してみる等、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表管理や、管理者から業務・勤務状況等を報告されている。職員満足度が高められるよう常に意識し、職員からの意見に耳を傾け、職員用意見箱を設置し、本音を探っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での「研修委員会」を中心に、毎月行なう全体研修や資格取得に向けての勉強会を企画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加盟し、研修会等へ参加することで情報交換や施設見学への話しもしている。他施設からの管理者研修も受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の悩み、悲しみなどが理解出来るよう傾聴に努めている。ご家族からも意見を確認した上で、ご本人の不安が少しでも軽減されるような取り組みを行ない、信頼して頂ける関係を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み・相談事などは、しっかりと耳を傾け、不安の軽減に繋がるような言葉掛けを行ない、信頼して頂ける関係を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況・状態を把握し、その方にとってもっとも適切なサービスが提供できる場所はどこか、を考えながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決して無理強いはいませんが、お願いできる事はして頂いている。一緒に洗濯物をたたんだり、味噌汁の味見をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会にて、介助方法や移乗方法などの勉強会を家族に向けて行なっている。また、服薬指導など随時行ない、一緒に介護をしているんだという意識を少しでも持っていただけるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	明るい笑顔と言葉掛けを心がけ、面会者が来られやすい雰囲気にも努めている。馴染みのある場所へのドライブや、家族や友人からの電話も掛けて頂くなどの協力も得ている。	馴染みのある場所への思いが途切れないように出身地域にドライブをしたり、年賀状や暑中見舞い等、外部とのつながりを継続する支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、そうでない人がいる為、テーブルの席には気を使っている。その中で洗濯物たたみ等の仕事を通じて、あるいは歌などの時間を通じて入居者同士が関わり合い、支え合えるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている場合も、随時面会に伺い、状態の把握とともに、施設としてお力になれる事は何かを考え、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご本人から意向・要望を確認しているが、困難な場合でもご家族からの意見を参考に生活歴・趣味・食歴などを把握した上で検討している。	家族が記入した事業所独自の「バックグラウンドアセスメント票」を活用し、本人にとってどのように暮らす事が最良なのかを検討し、思いの把握に努めている。手作りメニューに好みや季節を取り入れたり、出前や外食では本人がメニューを選択している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前訪問で可能であれば、ご自宅での実際の様子を確認させて頂くとともに「バックグラウンドアセスメント票」への記入をご家族にお願いし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を職員間にて毎日申し送りをし、記録に残すことで状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となり、他職員からも情報を得た上で計画作成者とカンファレンスを開き、計画作成を行なう。ご家族またはご本人への説明・同意を頂き、計画書の完成としている。	担当の職員が、他の職員からの意見や病状等の変化を記入した連絡ノート等を基に計画作成者とカンファレンスで検討して、現状に即した介護計画を作成する。3～6ヶ月で見直し、家族の意見や状態により計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録用紙へ毎日時間を追っての記録を残している。その他、介護日誌及び連絡ノートを用い情報の共有を図りながらケアに当たっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの地元へのドライブや、誕生日にはご家族と過ごす時間を作ることも計画している。希望に応じ、美容院への送迎や受診時の付き添いも行なっている。		

静岡県(花平の郷 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元ボランティアによる歌・踊りなどは随時受け入れている。防災訓練では消防署より訓練用消火器をお借りし、入居者とともに消火訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的、又は随時診療の付き添いをし、必要な情報を提供している。	入居時に本人と家族が希望のかかりつけ医を選択し、3箇所の協力医から家族と相談して決めて、職員が受診の介助をし電話で報告をしている。協力医以外の受診は家族対応が原則で、受診時に必要な情報や受診後の把握は家族と連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職でもあり、日々の様子と違うことがあれば、すぐに連絡相談している。状況により隣接する介護老人保健施設の看護師に応援を要請する仕組みとなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	頻繁にご面会へ伺い、状態の把握に努めるとともに、病院スタッフとも状況・状態の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族へ説明をし、入居後状態に応じタイミングを図った上で、ご家族・医師・職員とで話し合う場を作っている。	入居時に終末期の対応について本人と家族の意向を確認し、食が細くなってきた時点で家族と話し合い、看取りについての同意書を交わしターミナルケアプランを作成している。法人全体の研修で職員は家族の心のケアについても学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って、全職員に対し、勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練にて、避難・誘導等の訓練を行なっている。近隣の方にも参加して頂いたり、地域の防災訓練には職員が参加させて頂いている。	3月には地域住民と誘導訓練をして事業所内の把握をもらい、11月は夜間想定訓練を行っている。隣接した法人と防災対策委員会で協力体制を築き、水はタンクに、3日分の備蓄品が法人施設に用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職歴・生活歴などを考慮し、その方の人格を尊重した上での言葉掛けや対応を心がけている。	入居者への声かけや呼びかけは本人や家族の希望を確認し「～さん」を基本に、一対一の時は愛称で呼びかける場合もある。職員の言葉かけは丁寧で、落ち着いた穏やかな対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日に着る衣類の選択や、入浴するかしらないか等、ご本人と相談し納得してもらいながら行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の状況や、要望などを尊重し、当日の予定を立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物に行ける方は衣類など、ご自分で選んで購入してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も各テーブルへ分かれ、楽しく語らいながら一緒に食事をしている。静かに食べたい方、介助が必要な方など必要に応じてテーブル配置を検討している。行なって下さる方は食器拭きなどをお願いし、一緒に片付けを行なっている。	主食、汁物、おやつは事業所で作り、副食は法人の施設へ入居者と一緒に取りに行き、自分専用の茶碗等使用して、テーブル毎に職員と会話をしながら食事をしている。月1回の手作り食は職員がメニューを工夫し、外食や出前も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェックしている。嗜好も伺っており、苦手な物を避けたり、食べにくい物を刻んだり、その方に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、洗面所にて歯磨きを行なっている。困難な方へも歯科衛生士から助言をもらいながら口腔ケアに努めている。		

静岡県(花平の郷 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェック表にてパターン把握した上で声掛けをし、トイレでの排泄を促している。	一人ひとりの排泄パターンを職員が共有し、昼間はさり気ない声かけや見守りによりトイレでの排泄を支援している。夜間はパターンからパットを交換したり、立ち上がりをセンサーで認識し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂って頂ける様に、飲みにくい方へもトロミをつけて提供している。お茶以外にも紅茶やコーヒー・ジュースなど好きな物の提供も行なっている。また、随時便秘体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望者や皮膚疾患のある方などは、毎日入浴できるように準備している。時間帯はおやつ後より開始している。	入浴は15:30～、2日に1回、一人介助が基本だが、希望や状況等で毎日でも可能で、シャワー浴槽の設備もあり、状態によっては二人で介助し同性介助の希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝巻きや寝具など、それまでの習慣に合わせて、落ち着いて休まれるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬ケースにそれぞれの容量を記載し、配薬の都度確認が出来る様になっている。副作用・用法等についてはスタッフへ資料を配布し、指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・畑仕事・草取りなど、それまでご自宅で頑張っておられた方で、入居中も頑張って頂ける方にはどんどん行なってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	庭には花壇・畑・池があり、日中自由に過ごす事が出来る。行事として行楽地にもお連れするがご家族への参加も呼び掛けている。	月1回位、天気の良い日を選び名所旧跡や花見、紅葉見物等の行事を企画して外でおやつを食べたり、誕生日には一人ひとりの希望にそって職員とドライブや外出に出かけている。家族と一緒に墓参り等に行くこともある。	

静岡県(花平の郷 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、所持して貰う様支援し、管理が困難な方であっても可能な限り、ご自分でお支払をされるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある限りお手伝いをし、電話でも直接お話しをして頂いている。ご自分で書けない方には代筆にて毎年ご家族宛にご本人からの年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓や排煙窓にて直射日光を遮りながら、自然な風も確保している。	キッチン、リビングが一つのフロアにあり、ユニット毎に洋風と和風の造りになっている。南面に面したガラス窓からは程よい光と風が入り、クリスマスツリーが飾られて、清潔で明るくゆったりとした共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファーや畳の間があり、思い思いに過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は持ち込みとし、出来る限り馴染みのある環境を作られるようご家族へ依頼している。	入居時に本人の部屋の見取り図を家族に依頼し、箆笥やソファ等馴染みの品を持ち込み、相談をしながら入居前の生活に近い環境作りをしている。訪問した家族と楽しむゲームがあったり、仏壇を置いて毎食お供えをしている方もいて、その方らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下周囲に手すりを取り付け、バリアフリーに徹している。トイレは車椅子の方でも入れるよう広さを確保している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278100249		
法人名	医療法人社団 藤花会		
事業所名	花平の郷	ユニット名: コスモス	
所在地	浜松市北区引佐町花平725-1		
自己評価作成日	平成23年10月18日	評価結果市町村受理日	平成24年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai gokouhyou.jp/kai gos ip/ infomationPublic. do?JGD=2278100249&SCD=320&PCD=22>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成23年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく楽しくのんびりと生きがいのある生活」を送って頂けるよう、努めている。個々の生活リズムを大切に、それまでの生活リズムに近づけるよう入浴は夕方からとしている。お一人お一人の「喜ばれるものは何か」を追求し、誕生日会ではご自宅へお連れしたり、お好きなものを食べて頂くよう外出するといった内容の企画を立てている。毎月の食事会では手作りでの季節が感じられる料理を作ったり、出前や外食も定期的に行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の皆様から愛される施設」を理念として開設から掲げ、全職員へ基本理念を配布し、各所に掲示している。常に意識し自己の振り返りが出来る様にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域が主催するお祭りや盆踊りなどへ参加させて頂き、こちらが主催する催しへは地域の皆様に招待するなど交流を図っている。普段の散歩では途中の立話など日常的に交流は図れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催のセミナーを適時行ない、地域の方々へ「認知症について」など分かり易く説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催を開始以来継続しており、情報交換及びサービスの提供に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会への出席や運営推進会議を開催することで、行政職員や地域包括支援センターの方々との協力関係が保たれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会にて「高齢者の尊厳を守る会」を設置し全職員に対し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者の尊厳を守る会」にて虐待についても全職員に指導している。スピーチロックなど無意識にされていないか、職員同士で注意し合っている。		

静岡県(花平の郷 コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当者を決め、必要な研修に参加している。希望されれば、担当弁護士との接見に同席する等の支援も行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の段階で契約についての説明はしっかりと行なっている。改定などがあれば、その都度書面にてお知らせし、面会時に詳しく説明を行ない同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも声を掛けて頂ける雰囲気作りに努めているが、言い難い方に対し、意見箱を設置している。出された意見については、その回答を記し、掲示板に張り出す様に決めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を行ない、意見や提案を確認している。施設長が法人の運営会議に参加しており、必要な内容は直接運営会議に持ち込んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表管理や、管理者から業務・勤務状況等を報告されている。職員満足度が高められるよう常に意識し、職員からの意見に耳を傾け、職員用意見箱を設置し、本音を探っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での「研修委員会」を中心に、毎月行なう全体研修や資格取得に向けての勉強会を企画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加盟し、研修会等へ参加することで情報交換や施設見学への話しもしている。他施設からの管理者研修も受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の悩み、悲しみなどが理解出来るよう傾聴に努めている。ご家族からも意見を確認した上で、ご本人の不安が少しでも軽減されるような取り組みを行ない、信頼して頂ける関係を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み・相談事などは、しっかりと耳を傾け、不安の軽減に繋がるような言葉掛けを行ない、信頼して頂ける関係を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況・状態を把握し、その方にとってもっとも適切なサービスが提供できる場所はどこか、を考えながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決して無理強いはいませんが、お願いできる事はして頂いている。一緒に洗濯物をたたんだり、味噌汁の味見をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会にて、介助方法や移乗方法などの勉強会を家族に向けて行なっている。また、服薬指導など随時行ない、一緒に介護をしているんだという意識を少しでも持っていただけるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	明るい笑顔と言葉掛けを心がけ、面会者が来られやすい雰囲気にも努めている。馴染のある場所へのドライブや、家族や友人からの電話も掛けて頂くなどの協力も得ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、そうでない人がいる為、テーブルの席には気を使っている。その中で洗濯物たたみ等の仕事を通じて、あるいは歌などの時間を通じて入居者同士が関わり合い、支え合えるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている場合も、随時面会に伺い、状態の把握とともに、施設としてお力になれる事は何かを考え、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご本人から意向・要望を確認しているが、困難な場合でもご家族からの意見を参考に生活歴・趣味・食歴などを把握した上で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前訪問で可能であれば、ご自宅での実際の様子を確認させて頂くとともに「バックグラウンドアセスメント票」への記入をご家族にお願いし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を職員間にて毎日申し送りをし、記録に残すことで状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となり、他職員からも情報を得た上で計画作成者とカンファレンスを開き、計画作成を行なう。ご家族またはご本人への説明・同意を頂き、計画書の完成としている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録用紙へ毎日時間を追っての記録を残している。その他、介護日誌及び連絡ノートを用い情報の共有を図りながらケアに当たっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの地元へのドライブや、誕生日にはご家族と過ごす時間を作ることも計画している。希望に応じ、美容院への送迎や受診時の付き添いも行なっている。		

静岡県(花平の郷 コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元ボランティアによる歌・踊りなどは随時受け入れている。防災訓練では消防署より訓練用消火器をお借りし、入居者とともに消火訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的、又は随時診療の付き添いをし、必要な情報を提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職でもあり、日々の様子と違うことがあれば、すぐに連絡相談している。状況により隣接する介護老人保健施設の看護師に応援を要請する仕組みとなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	頻繁にご面会へ伺い、状態の把握に努めるとともに、病院スタッフとも状況・状態の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族へ説明をし、入居後状態に応じタイミングを図った上で、ご家族・医師・職員とで話し合う場を作っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って、全職員に対し、勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練にて、避難・誘導等の訓練を行なっている。近隣の方にも参加して頂いたり、地域の防災訓練には職員が参加させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職歴・生活歴などを考慮し、その方の人格を尊重した上での言葉掛けや対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日に着る衣類の選択や、入浴するかどうか等、ご本人と相談し納得してもらいながら行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の状況や、要望などを尊重し、当日の予定を立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物に行ける方は衣類など、ご自分で選んで購入してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も各テーブルへ分かれ、楽しく語らいながら一緒に食事をしている。静かに食べたい方、介助が必要な方など必要に応じてテーブル配置を検討している。行なって下さる方は食器拭きなどをお願いし、一緒に片付けを行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェックしている。嗜好も伺っており、苦手な物を避けたり、食べにくい物を刻んだり、その方に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、洗面所にて歯磨きを行なっている。困難な方へも歯科衛生士から助言をもらいながら口腔ケアに努めている。		

静岡県(花平の郷 コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェック表にてパターン把握した上で声掛けをし、トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂って頂ける様に、飲みにくい方へもトロミをつけて提供している。お茶以外にも紅茶やコーヒー・ジュースなど好きな物の提供も行なっている。また、随時便秘体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望者や皮膚疾患のある方などは、毎日入浴できるように準備している。時間帯はおやつ後より開始している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝巻きや寝具など、それまでの習慣に合わせて、落ち着いて休まれるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬ケースにそれぞれの容量を記載し、配薬の都度確認が出来る様になっている。副作用・用法等についてはスタッフへ資料を配布し、指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・畑仕事・草取りなど、それまでご自宅で頑張っておられた方で、入居中も頑張って頂ける方にはどんどん行なってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	庭には花壇・畑・池があり、日中自由に過ごす事が出来る。行事として行楽地にもお連れするがご家族への参加も呼び掛けている。		

静岡県(花平の郷 コスモス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、所持して貰う様支援し、管理が困難な方であっても可能な限り、ご自分でお支払をされるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある限りお手伝いをし、電話でも直接お話しをして頂いている。ご自分で書けない方には代筆にて毎年ご家族宛にご本人からの年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓や排煙窓にて直射日光を遮りながら、自然な風も確保している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファーや畳の間があり、思い思いに過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は持ち込みとし、出来る限り馴染のある環境を作られるようご家族へ依頼している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下周囲に手すりを取り付け、バリアフリーに徹している。トイレは車椅子の方でも入れるよう広さを確保している。		